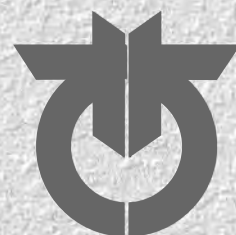


人権教育広報

ふれあい

編集・発行 桶川市人権教育推進協議会



第8号



「自分発見」
桶川西中学校 3年 中村夏海

人権標語

考えよう やっていいこと わるいこと

●川田谷小2年 高橋海人●

なりたいな 心のいたみが わかる人

●桶川小4年 横塚奏人●

よく見よう 人の心と 自分の心

●桶川小5年 伊藤里紗●

いけないよ 軽い気持ちも 深い傷

●桶川中1年 代田結子●

思いやる 気持ち一つで いじめゼロ

●桶川西中2年 永峰若菜●

認め合う 十人十色の すばらしさ

●桶川中3年 西野琴美●



地域の皆さんとともに

桶川西小学校

本校は、地域とのつながりが深く、色々な学習の場で地域の方々がゲストティーチャーとして活躍してくださっています。

五年生の総合的な学習では、学区に住む岸さんの田を借りて米づくりをしています。田植えから稲刈りまで体験でき、最近では珍しい「のこぎりがま」の使い方も学習することができました。保護者のボランティアも加わり、約六十キロのお米を収穫でき、給食時に「芋栗ごはん」として全校でおいしくいただきました。この活動を通して、子どもたちは働くことの大切さを実感し、感謝する心を学ぶことができました。

三年生の社会科「市の人々の仕事」の学習では、和久津さんの梨畑を見学しました。具体的な資料を使って、梨づくりの一年間の仕事について説明を聞いたり、選果の作業の様子を見学したりしました。この学習で、子どもたちは地域の皆さんの学校への温かい思いに触れ、思いやりの心を学ぶことができました。

子どもを取り巻く社会環境は大きく変化し、核家族化、少子化が進み、人間関係づくりに消極的な子どもたちが増えています。このような状況の中、桶川西小学校では、地域の力を活かし、家庭・学校・地域で連携し、人権教育の推進に努めています。



思いやりの心を育てる異学年交流

川田谷小学校

本校では、「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育成する」を人権教育目標とし、教育活動全体を通じて児童の人権意識を高める取組をしています。

その一つの「遊びの広場」では、異学年との交流を深めています。これは、低学年と高学年でなかよし学級を作り、一緒に遊びを企画し、準備や仕事を行います。高学年の児童が、わかりやすくやり方を教えたり、うまくできない低学年の児童を助けたりしながら仕事を進めていました。

また、ペアを組んで遊びます。

手をつないで仲良く歩く姿や、どこへ行くか楽しそうに相談する姿が見られました。子どもたちから、次のような感想が聞かれました。

- ・一年生が楽しんでもくれたので、とても満足しています。
- ・お兄さんと一緒に遊ぶことができて、とてもうれしかったです。
- ・仕事のやり方をやさしく教えてもらったのでうまくなりました。
- ・このように、助け合うことや相手の立場に立って行動することの大切さを学ぶことができました。
- ・今後も、一人一人に思いやりの心を育てていけるような取組を推進していきたいと思っています。



本校では、「学ぼう未来へ 育てよう心と体」ことができるのか、生徒一人一人の学校教育目標と「時を守り 場を清め 礼をつくす」の実践目標のもと、人権教育目標「□ 一人一人の人権を尊重する教育 □ 相手の立場を考え、共に学びあえる生徒」を掲げ、全教育活動を通じて、人権教育に取り組んでいます。その中から二つの実践を紹介します。

一 人権週間における人権教育の実践

年二回の人権週間において、学習資料やVTRを活用し、さまざまな差別の実態について学ぶと共に、「人権とは何なのか」というテーマについて考えました。そして、全校生徒が人権作文・人権標語の作成に取り組みしました。作品の中には「自分にも人権があるように、相手にも人権があることが分った。」「お互いに支え合うことが大切だと思った。」という言葉が多く、育成に努めて人権の大切さや差別の解消のためにどのような

本校では、新たな学校教育目標「志を持ち自ら学ぶ 健康でたくましい生徒」の具現化を目指し、人権教育目標「□人権意識を高める。 □人権に関する正しい理解を深める。 □様々な人権課題を解決しようとする態度を育てる。」を設定して人権教育を推進しています。

今年度も全校生徒が人権作文に取り組みしましたが、身近な学校の問題だけでなく、世界の戦争と平和、環境、貧困の問題に目を向けた作文が多く見られました。

昨年度まで「あいさついっぱい、笑顔いっぱい」の地域づくりと人権を尊重する 心豊かな人づくりの推進」を研究主題に地域全体で人権尊重の精神を高め、あいさつを中心に他者との関係づくりを進める取組を行ってきました。今年度も学校および出身小学校でのあいさつ運動を行っています。



また、川田谷小児童が参加した合宿通学にボランティアとして、地域の方々と一緒に生徒が参加しました。小学生の活動や調理の補助、うどんづくり（写真）などの活動に生き生きと取り組んでいます。

また、小学生や地域の方々との交流を通して、自らの成長を振り返ることができました。

また、地域の皆さんに見守られ、援助



地域でふれあい、人権尊重の態度を育てる

桶川西中学校



人権への理解を深める実践

桶川中学校



地域の方々と豊かに交流する体験

朝日小学校

本校では、学校教育目標「豊かな人間性と自ら学ぶ意欲をもってたくましく生きる児童の育成」を受け、人権教育目標を「人間尊重に徹し、人権尊重の高揚を図り、人権に対する正しい知識と理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育てる」として教育活動を行っています。

運動会の際には、福祉委員会の児童が地域の高齢者の方々に招待状を出して、一緒にお話するなど交流を深めています。その際には五・六年生の児童が接待をしています。また、福祉委員会では、愛の家グループホームを訪問して、ゲームやクイズなどをして交流し

一人役を受けもち、主体的に活動できるようになりました。集団の中で助け合い、自然と人権尊重の気持ちが育っているように思います。

二つ目は、人権標語及び人権講話の取組です。「思いやりの心を育むための合言葉」としての人権標語作りに、全校児童が取り組みました。出来上がった作品の中から、各クラス三点ずつを代表として、児童用昇降口に掲示し、鑑賞しました。そして、十二月十日の世界人権デーを前に十二月の全校朝会では、校長による人権講話を行いました。中山千夏作「どんなかんじかなあ」という絵本の読み聞かせです。主人公の少年が周りの障害のある友だちのよさに気づき（目の不自由な友だちは音がよく聞こえるなど）、「いいなあ」と羨ましがってお話です。この講話から児童は、一人一人のよさに気づくことの大切さを学びました。

また、四年生の総合的な学習の時間には「今私たちにできることは」という単元で、福祉について学習しています。車いすの体験やアイマスク体験などを通して、さまざまな人と交流し、思いやりの心を育てたり、障害のある人への理解を深めたりしています。

これらは、活動の一端ですが、その他の教育活動の中でも地域の方々との交流を進めています。



人権尊重の気持ちを育む実践

日出谷小学校

本校では、「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、人権尊重の精神を育てる」を目標に掲げ、人権教育を行っています。その中から、二つの取組を紹介します。

一つ目は、毎年十一月に実施している「日出谷フェスティバル」です。各学年を六班に分け、縦割り編成をし、六年生を中心に企画から運営まで自分たちで行っています。

実践する中で、始めは何かをしていいかわからなかった児童も、一



一人役を受けもち、主体的に活動できるようになりました。集団の中で助け合い、自然と人権尊重の気持ちが育っているように思います。

二つ目は、人権標語及び人権講話の取組です。「思いやりの心を育むための合言葉」としての人権標語作りに、全校児童が取り組みました。出来上がった作品の中から、各クラス三点ずつを代表として、児童用昇降口に掲示し、鑑賞しました。そして、十二月十日の世界人権デーを前に十二月の全校朝会では、校長による人権講話を行いました。中山千夏作「どんなかんじかなあ」という絵本の読み聞かせです。主人公の少年が周りの障害のある友だちのよさに気づき（目の不自由な友だちは音がよく聞こえるなど）、「いいなあ」と羨ましがってお話です。この講話から児童は、一人一人のよさに気づくことの大切さを学びました。

人権教育ビデオの紹介

（概要）
中井拓也はクラス対抗駅伝の選手だが、ひっそりなしく居るに届く誹謗中傷や現金を要求するメールに頭を抱えている。恐喝された拓也は、幼友達俊介に金を貸して頼むが断られ、死を考えて学校から姿を消してしまう。いじめは加害者と被害者の他に観衆と傍観者がいて、それぞれが被害者を追い込んでいく。また、大人社会の歪が子どもたちに影響しているのだ。



〈ひとみ輝くとき〉(ドラマ35分)

（概要）
小学校五年生のクラスメイト直子、真由美、美紀、千恵子たち。クラス対抗のドッチボール大会が近いので練習にも熱が入る。ある日勉強も運動も優れ人に負けるのが大きいらいな千恵子は練習で運動が苦手な美紀に負かされる。その日から千恵子は美紀に対して意地悪をする。それを見ていた真由美は、一人千恵子に立ち向うのだった。



〈ありったけの勇氣〉(ドラマ27分)

※視聴をご希望の方は、教育委員会までお申し出ください。

本校の教育目標は「二十一世紀を、心身ともにたくましく生きる人間を育成する」です。緑豊かな木々に囲まれた環境の中、「ハートフル桶西」を合言葉に、思いやりの心を大切にしたい指導が行われています。

人権教育推進委員会では、この目標・合言葉を基盤に据え、「たのしい・ためになる・たよれる学校づくり」を目指して人権教育の指導と実践の推進に努めております。

第一学年では、「旅立ちの日に」というアニメを視聴します。この人権教育アニメははじめ問題や家族のあり方、障害のある人の社会参加がテーマになっています。

第二学年では平和をテーマに学習します。戦争（沖縄戦）を取り上げ、戦争が最大の人権侵害であるとの考え方を根底におき、平和講演会を開いています。今年はいよいよ文学館において

て、元ひめゆり学徒であった与那覇百子氏を講師として迎え、「沖縄戦を体験し、平和と生命の大切さを知る」という貴重な話を受講しました。戦争経験のない生徒達には、強く心に響いたことと思います。又、修学旅行先の沖縄では、平和祈念資料館や壕の見学をし、平和の尊さを直に学んで参りました。

第三学年では、異文化の人々への偏見・差別の存在に気づかせ、又、障害のある人への理解・支援・協力の必要性を説いたビデオ「この空の下で」を視聴し、心豊か（ハートフル）な桶西生を目指しています。



こころにいつも「ハートフル」桶西

埼玉県立桶川西高等学校

人権作文

ありがとうね

桶川小六年

吉田 鈴奈

ある日のことです。私の九十六歳のひいおばあちゃんが友達の家
の玄関先で転んで骨折し、入院し
てしまいました。私たちがお見舞
いに行く、いつも、

「コメントね。迷惑ばかりかけて。
コメントね。」

と、謝ってばかりいました。ひい
おばあちゃんは、自分が動けなく
なって、みんなに迷惑をかけてい
ることが悲しくて、泣いてしまっ
てもありました。そんなひいお
ばあちゃんの姿を見て、みんなは、
「今までいろいろやってきてくれ
ただから、今は世話になってい
んだよ。」
となぐさめました。それでも、心

配される自分が悲しくて泣いてし
まうのです。

ひいおばあちゃんは、入院をき
っかけに、認知症が始まってしま
い、その後どんどんひどくなって
いきました。その頃からひいおば
あちゃんの口ぐせは、「コメントね」
ではなく「ありがとうね」に変わ
りました。症状がひどい時には、私
に向かって、「ゆきちゃん」と母
の名前で呼びかけます。人の区別
がつかなくなって昔のことばかり
思い出すようになりました。でも
ひいおばあちゃんは悲しい顔をし
なくなりました。いつもニコニコ
して「ありがとうね」と何回も何回
も言うようになりました。何を話
しても、

「ありがとうね。」

と、言われてしまいます。認知症
の症状が進んだために悲しさを感
じなくなったように見えました。

ホッとすると同時に何だかさみし
く感じました。かいごのことなど

で家族がけんかをして、おばあ
ちゃんは、
「ありがとうね。」
と言います。それを聞くとみんな
は、何も言えなくなってしまいま
した。

その後、高熱が何日も続いて、
ひいおばあちゃんはなくなりまし
た。最後の頃は、もう言葉もはっ
きり聞こえなかったけれど、「あ
りがとね」とみんなに言っている
みたいになつこりと優しい表情を
していました。

ひいおばあちゃんは、家族のた
めだけでなく、ボランティアとし
て、地域のために積極的に活動し
ていました。だから、おそつ式に
は、たくさんのボランティアの仲
間が、「ありがとう」を言いや
って来てくれました。私は、改め

てひいおばあちゃんのすごさを感
じました。

人に感謝される人は、たくさん
の人に感謝の気持ちをもって接し
てきた人だと思いました。小さな
ことでも、「ありがとう」と思え
て、しっかりとした言葉で伝えれ
ば、みんな幸せな気持ちになれる
のだと思います。だから、ひいお
ばあちゃんの口ぐせの
「ありがとうね。」
をもっと大切にしていこうと思
います。



編集後記

みんなで築こう 人権の世紀

～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～

様々な人権課題解決のために、私たち一人一人
が人権感覚を磨き、自らの課題として受け止め、
日々の実践に向けて努力していきましょう

桶川市教育委員会生涯学習スポーツ課
〒363-0012 桶川市末広2-8-29
TEL 048-728-4111 (代表)